

「光の小径」実証実験報告書



平成20年2月

函館市商工観光部観光振興室観光課

「光の小径」実証実験報告書

1 背景および目的

当市の観光は、「はこだてクリスマスファンタジー」の実施により、12月の観光入込客数については10年前と比較して倍増しているものの、1月から3月までの冬期間については、依然として厳しい状況が続いている（上期7：下期3）。

こうした夏季偏重型観光からの脱却に向けた第一歩目を記すため、「冬」ならではの魅力を伝える新たな観光資源の創出策として、環境にやさしいキャンドルの「光」をテーマとする「光の小径」実証実験に取り組む。

2 手法

シーニックバイウェイ北海道の協賛イベント「シーニック de ナイト」などを企画運営し、手作りキャンドルによる夜間景観の演出を数多く手がけているNPO法人スプリングボードユニティ21（理事長 折谷久美子氏）の協力を得て、「手作り型」、「市民参加型」のキャンドルイベントを開催した。

3 概要

(1) 元町公園～港が丘通（平成20年2月1日 18時～19時半）

昨年2月1日の「はこだて冬フェスティバル」ウォークラリーにおいて試行実施した「元町公園～港が丘通」の手作りキャンドル点灯を、規模を拡大して今冬も継続実施した。（延長800m、キャンドル約600個）

(2) 五稜郭公園（平成20年2月2日 17時～19時）

「五稜星の夢」により郭内[・]が星形に飾られた五稜郭公園において、新たに郭外園路（延長約1.8km）に手作りキャンドルを灯らせ、「地上の五稜星^{ほし}」を現出させる。（キャンドル約1,000個）

4 準備作業

実証実験に使用するワックスキャンドルとアイスクャンドルの製作および実験当日のイベント運営については、NPO法人スプリングボードユニティ21に委託した。キャンドル製作に要する牛乳パックについては、市民から広く協力をいただいたほか、函館牛乳(株)から約1,000本の提供をいただいた。アイスクャンドルの製作に要するスチール空き缶については、北海道コカ・コーラボトリング株式会社函館営業所から約200本の提供をいただいた。

また、ワックスキャンドルの製作会場として、五稜郭タワー株式会社からアトリウムを提供いただいたほか、アイスクャンドルの製作にあたり金森商船株式会社から金森ホールおよび冷凍倉庫を提供いただいた。

同NPOは、以下の日程でキャンドルの製作作業に取り組んだ。

- ・ 1月12日(土) 午前10時～午後3時 五稜郭タワーアトリウムにて
市民ボランティア・観光客ほか約150名が参加。
ワックスキャンドル約350個製作
- ・ 1月19日(土) 午前11時～午後3時 五稜郭タワーアトリウムにて
市民ボランティア・観光客ほか約100名が参加。
ワックスキャンドル約450個製作
- ・ 1月26日(土) 午後1時～午後5時 金森ホールにて
市民ボランティア・観光客ほか約50名が参加。
ワックスキャンドル約400個製作、アイスクャンドル約400個製作

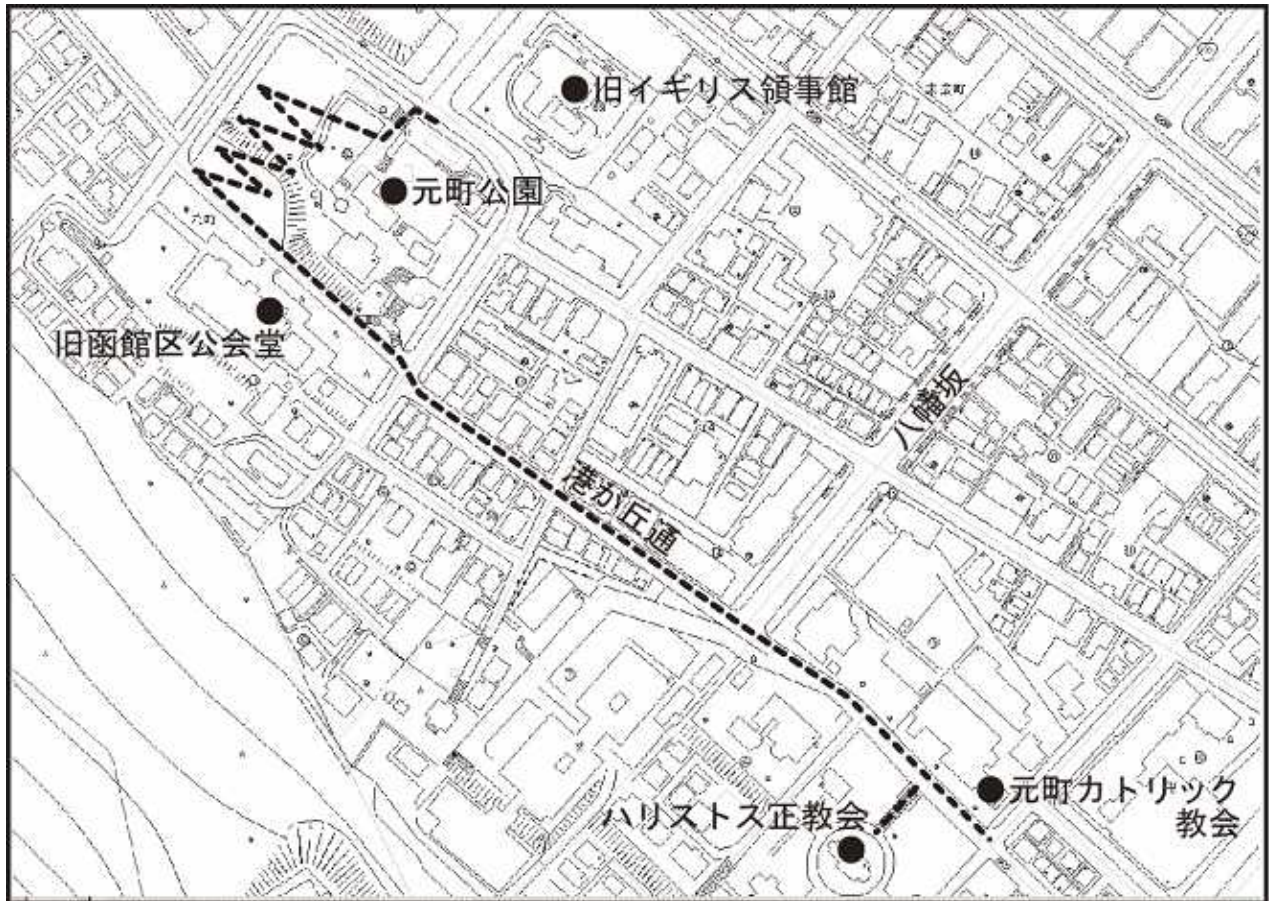


五稜郭タワーアトリウムにて



5 実証実験の詳細

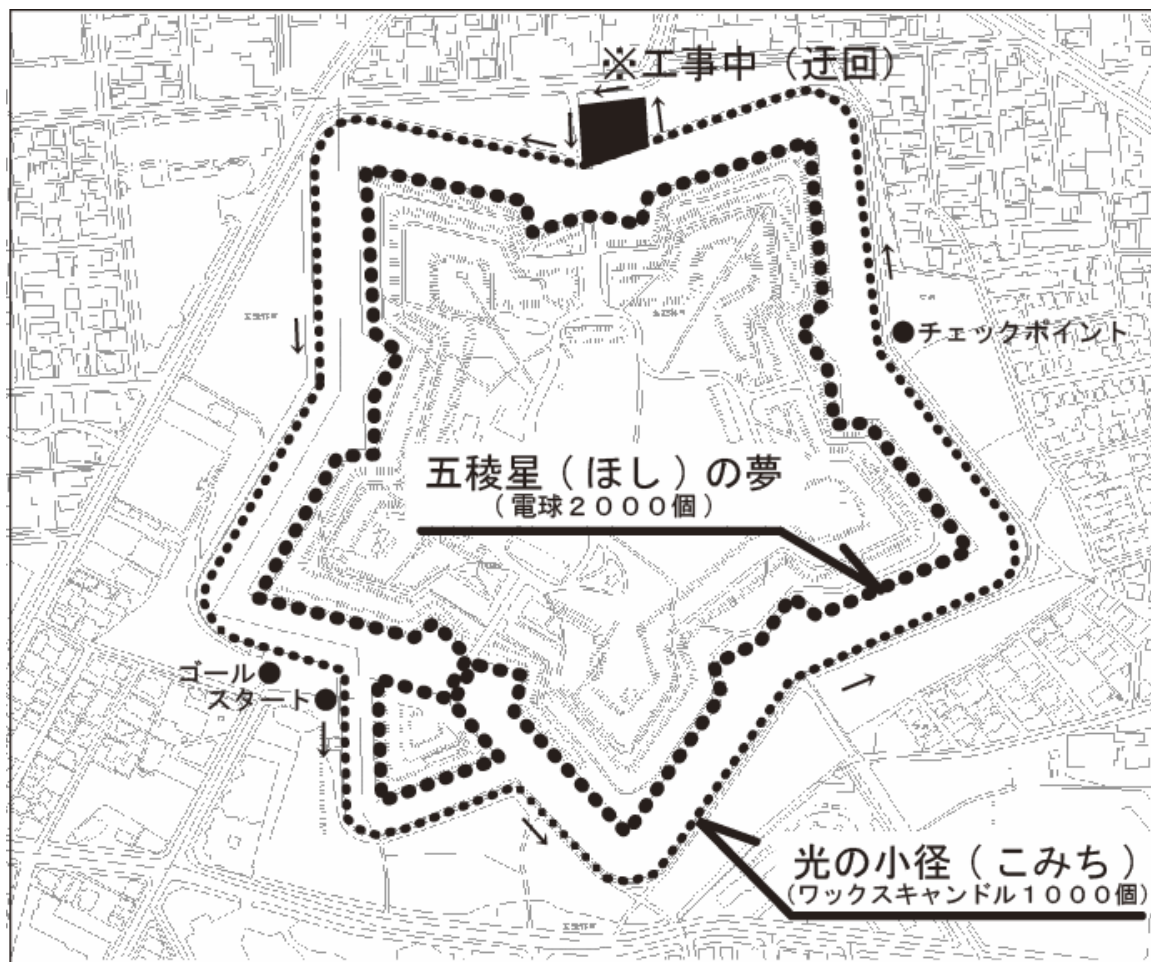
(1) 元町公園～港が丘通



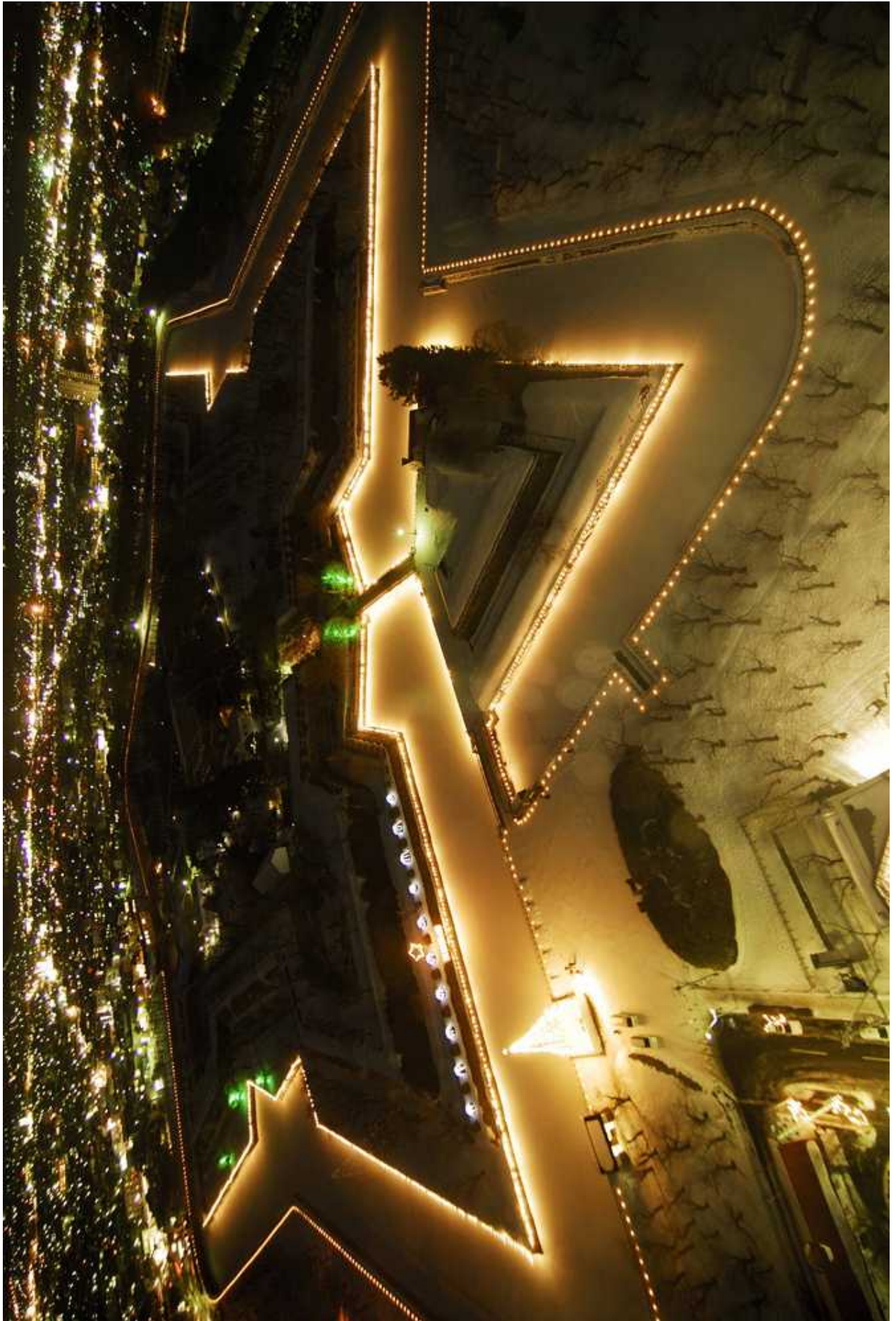
- ・実施日：平成20年2月1日(金)
- ・時間帯：18:00～19:30
- ・実施場所：元町公園～港が丘通～元町カトリック教会(約800m)
- ・キャンドル個数：約600個(ワックスキャンドル200, アイスキャンドル400)
- ・参加者数：約300名(「はこだてイルミネーション・点灯ウォークラリー」参加者約100名を含む)
- ・特記事項：ハリストス正教会の信者皆様のご協力により, 同教会の敷地内にもキャンドルが約60個設置された。



(2) 五稜郭公園



- ・実施日：平成20年2月2日(土)
- ・時間帯：17:00～19:00
- ・実施場所：五稜郭公園外周囲路
- ・キャンドル個数：約1000個(全てワックスキャンドル)
- ・参加者数：約350名(+ + 重複カウントの可能性あり)
(内訳) 1.8キロ徒歩参加者 45名
正面広場での見学者 約150名
五稜郭タワー搭乗者 157名
- ・特記事項：五稜郭外周1.8キロを歩いて見学した方には、五稜郭タワーアトリウムでソフトドリンクが提供された。また、アトリウム内で「光の小径煌めきコンサート」も開催された。



6 実証実験の成果

(1) 「元町公園～港が丘通」

当該コースについては、昨年の試行により以下の事項が明らかとなっていた。

- ・アイスクャンドルは透明で幻想的な輝きを放つ一方、その構造上、風雪に弱い面がある。
- ・実験的に数個配置したワックスキャンドルは、とりわけ風雪に強い。

このため、今回の実施にあたってはワックスキャンドルの個数を大幅に増加させたほか（約200個）、アイスクャンドルの燃焼維持のため、30数名のボランティアスタッフにより管理の万全を期した結果、1時間半にわたり良好な夜間景観の演出が図られた。

今回の実証実験により、全体の作業量や工程、さらに実施効果など、今後の本格実施に向けた資料を得ることができた。

(2) 「五稜郭公園」

五稜郭公園コースについては、今回が初の試みである。郭内で行われている五稜星の夢の「まばゆい電球」の光量に対し、ワックスキャンドルは「ほのかな灯り」であり、実はその取り合わせを懸念していた。

30数名のボランティアスタッフを6班に編成し、午後4時から設置作業に取り組み、同35分に設置が完了、直ちに点灯作業に取り組んだ結果、同45分には全てのキャンドルに点灯することができた。日没後の大地には、見事に「地上の五稜星（ほし）」が描かれた。

今回の実証実験により、全体の作業量や工程、さらに実施効果など、今後の本格実施に向けた資料を得ることができた。

7 今後の展望

今回の実証成果を基に、来るべき平成21年冬の「本格実施」を可能とするため、函館国際観光コンベンション協会ほか関係機関・団体と協議し、早期のうちに開催日程、開催場所、開催手法などを確定し、冬季における新たな旅行商品造成に向けた一助としたい。

「光の小径」へのご協力，
本当にありがとうございました。

(来年もよろしくお願いします。)

「光の小径」運營業務受託者
特定非営利活動法人スプリングボードユニティ 2 1

製作・運営ボランティア

えぞ共和国

国土交通省北海道運輸局函館運輸支局

国土交通省北海道開発局函館開発建設部

五稜星の夢実行委員会

有限責任中間法人シーニックバイウェイ支援センター

北海道渡島支庁

北海道函館土木現業所

稜雲社

キャンドル製作にご協力いただいた市民の皆さん，観光客の皆さん

協力

金森商船株式会社

五稜郭タワー株式会社

「シーニック de ナイト 2 0 0 8」実行委員会

函館牛乳株式会社

北海道コカ・コーラボトリング株式会社函館営業所

(五十音順)

「光の小径」実証実験報告書

発行 平成 2 0 年 2 月

函館市商工観光部観光振興室観光課

〒040-8666 北海道函館市東雲町 4 番 1 3 号

電話 0138-21-3340 FAX0138-21-3324